公園にドッグランはできる？ 市の考えは

～ 子どもの見守りや地域のにぎわいにつながる？ 実証実験を提案しました ～

① 提案の趣旨・目的（議員の考え）

- 高齢者の単身・夫婦世帯が増え、ペット（特に犬）を飼う人が増えるのではないか。
- 公園は人目のつかない場所が多く、子どもを安心して遊ばせられないとの声がある。
- 公園にドッグランを併設し、犬の飼い主が集うことで、子どもの見守りや防犯につながるのではないか。
- 実証実験を行い、その有効性や課題を検証してはどうか。

② 公園併設ドッグランのイメージ図



期待される効果

- 犬の運動不足解消・ストレス軽減
- 飼い主同士の交流、世代を超えたふれあい
- 子どもの見守り・防犯効果
- 犬の健康管理、ふん尿被害の軽減
- 観光振興など地域のにぎわい

その他の取組（例）

- 飼い主のマナー教室
- 犬のしつけ方教室
- 地域住民との交流イベント　など

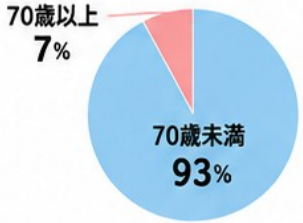
③ 市内の犬の登録数（市の回答）



※ 各年4月1日現在の登録数（狂犬病予防法に基づく犬の登録数）

④ 登録者の年代（市の回答）

直近3年間の新規登録者の年代



※ 新規登録や転入は微増で、30代・40代の登録が増加傾向。

⑤ 県内のドッグランの状況（市の回答）

- **県内のドッグラン　約20か所**
  （インターネット等の情報による）
- **自治体が運営している施設**
  ・青森県動物愛護センター　1か所
- **公園等で指定管理者等が運営する事例**
  ・弘前市、三沢市、鰺ヶ沢町　など

⑥ ふん尿被害への対応（市の回答）

年に1～2件の相談がある。

主な対策

- 広報誌でのマナー啓発
- マナー看板の設置
- 町会と協力したチラシ配布 など

⑦ 議員との主な質疑応答

Q1 犬の登録数の現状は？

A 令和2年1,104頭から令和6年990頭で、年々減少しています。（市の回答）

Q2 高齢者の飼育は増える？

A 新規登録のうち70歳以上は7%で、全体は横ばいです。

Q3 県内のドッグランは？

A 約20か所あり、自治体運営は青森県動物愛護センターのみです。公園での運営事例は弘前市、三沢市、鰺ヶ沢町です。（市の回答）

Q4 公園併設ドッグランの実証実験はできないか？

A 犬の管理が必要で飼い主が子どもの見守りまで行うのは困難です。騒音などの問題もあり、現段階では実証実験を行う考えはありません。（市の回答）

議員の意見（再質問）

大人の目が増えることは防犯対策になると考えます。実証実験を行えば、机上では分からない発見があるはずです。引き続き検討をお願いします。



⑧ 市の最終的な考え

市の回答



犬の管理や騒音などの問題があり、
現段階では公園併設ドッグランの実証実験を行う考えはありません。

⑨ 今後の課題

- 公園の防犯対策（人目の少ない場所の改善など）
- ペットのふん尿被害のマナー向上
- 人口減少・少子高齢化に対応した新たな地域づくりの検討　など